

漫才「英単語」(2分) ※女性が相手だった時のネタです

2人「どうも、〇〇です。お願いしまーす」

ボケ「最近ハマってることがあってさ」

ツッコミ「うん、何？」

ボ「都内の図書館ハシゴすることハマってんの」

ツ「図書館ハシゴ!? 何しに？」

ボ「恋愛しに」

ツ「恋愛? あゝ……」

ボケ・ツッコミ、いったん離れて、その後、歩み寄る。

ボケ・ツッコミ、本棚に手を伸ばして、手が触れるジェスチャー。

ボ・ツ「あっ……」

ツ「——ってやつをやりにな!？」

ボ「そうそう」

ツ「公共施設で色気づかれても……」

ボ「で、誰か通りかかるの待ってたんだけど、そしたらテーブル席のところね、小
学生ぐらいの女の子が居て、英単語の勉強してたのよ」

ツ「英単語の勉強？」

ボ「単語カード使って」

ツ「自分で書いて、めくるやつか」

ボケ、迷惑そうな顔で。

ボ「で、その女の子、英単語を大声で読み上げてんの」

ツ「大声で？ 図書館なのに？」

ボケ、コントイン。

椅子に座って、単語帳をめくるジェスチャー（単語を言うたびにめくる）。

ボ「ベースボール、野球」

ツ「あゝ、これはちょっと迷惑かもしれませんね（客席を見て）」

ボ「ジーニアス、天才」

ツ「まあでも、悪いのはこの子をほったらかしてる親の方ですからね（客席を見て）」

ボ「トウ・ウェイ・プレイヤー、二刀流」

ツ「大谷翔平？ 野球、天才、二刀流って、この子、大谷翔平に関する英単語だけ勉強してない!？」

ボ「イワテ・プリフェクチャー、岩手県」

ツ「ほら大谷の出身地！」

ボ「ホームラン」

ツ「ホームランはホームランでしょ？」

ボ「あなたが最も輝く瞬間」

ツ「意識がすごいな！ ファンなのかな？」

ボ「アイチアユー」

ツ「ほら『応援してる』って、可愛いね」

ボ「(ウザい感じで) もうちょいメディアの露出抑えた方がいいかも」

ツ「可愛くなっ！」

ボ「アイラブユー」

ツ「『愛してる』……まあ、可愛いね」

ボ「嫁だの犬だのもういらん！」

ツ「厄介ファンだ！ いちファンが凶々しい。いや、幸せな家庭を築けるように応援してあげようよ」

ボケ、うつむく。落ち込んだ様子。

ツ「え、どうした？」

ボ「（声のトーンを落として）……シークレット、秘密」

ツ「秘密？ 大谷と関係ある？」

ボ「ハイド、隠す。ドーター、娘」

ツ「え、嘘でしょ？」

ボ「マイファザー、大谷翔平」

ツ「え、この子、大谷翔平の隠し子なの！？」

（次から畳みかけ）

ボ「ベースボール」

ツ「野球でしょ？」

ボ「あなたを連れ去った悪魔」

ツ「意識、切なっ！」

ボ「ジーニアス」

ツ「天才でしょ？」

ボ「野球選手としては」

ツ「父親としては、そうではないと!？」

ボ「ビッグ・バレー」

ツ「大、谷……?」

ボ「(演劇調に、大げさに)明日は授業参観。クラスの皆は、お母さん、お父さんの前で、恥ずかしそうに、でも嬉しそうに授業を受ける。その教室の中、私だけは一人きり! ——ねえ、どんな気分だと思う?」

次のセリフ、ツツコミとボケ、向き合って、同時に。

ボ「人生の谷底に居る気分!」

ツ「人生の谷底に居る気分だよね!」

ボケ、コントから降りる。

ボ「——っていう子が居たんだよね」

ツ「いやいや、その子、大丈夫なの?」

ボ「大丈夫。ちゃんと連れて行ってあげたから」

ツ「児童相談所とかに？」

ボ「良い男と出会える図書館に」

ツ「いや、いい加減にしろ。どうもありがとうございました」

〈おわり〉